

単年度モデルのその後の状況

◎単年度モデル: 医療と介護の連携に集中的に取り組むモデル(平成26年度のみ実施)

平成27年12月末現在

分野	岡崎市		豊田市		北名古屋市	
	H26	H27	H26	H27	H26	H27
関係機関のネットワーク化	○地域ケア推進会議の開催(3回)	○地域ケア推進会議・生活支援体制整備協議体の開催(3回)(H28.2に1回開催含む) 【構成員】市医師会、岡崎歯科医師会、岡崎薬剤師会、民生委員、介護支援専門員、NPO、シルバー人材センター等 【内容】生活支援コーディネーター等生活支援について、サロン等の活動推進について等	○豊田市高齢者支援ネットワーク会議の開催(2回)	○豊田市高齢者支援ネットワーク会議の開催(2回)(H28.1～3に1回開催含む) 【構成員】豊田加茂医師会、豊田加茂歯科医師会、豊田加茂薬剤師会、自治区長、民生委員、高齢者クラブ等 【内容】豊田市の現状について、見守り、認知症対策、高齢者虐待等に関する課題について等	○関係機関連絡会議の開催(3回)	○地域包括ケアシステム推進協議会の開催(3回)(H28.3に1回開催含む) 【構成員】西名古屋医師会、西春日井歯科医師会、西春日井薬剤師会、済衆館病院、市社会福祉協議会等 【内容】北名古屋市の現状、システム構築に向けて、ICTの運用状況報告、医療・介護資源マップの導入等
			○ブロック地域ケア会議の開催	○モデル地区(西部)を含む5地区でブロック会議を開催 【構成員】豊田加茂医師会、自治区・民生委員・高齢者クラブ代表、ボランティア団体代表者、交流館等 【内容】 ・市内を5つの日常生活圏域に分け、ブロック地域ケア会議を開催。 ・地域包括支援センターごとに開催した単位地域ケア会議を通して抽出された地域課題の共有、高齢者を支える活動の紹介、高齢者の社会参加を促す方法等の検討、協議体についての説明等		
医療と介護の連携	○在宅医療・介護連携協議会の開催(2回)	○在宅医療・介護連携協議会の開催(3回)幸田町も参加し、二次医療圏としての検討を実施 【内容】来年度導入するICTについて、摂食嚥下支援について、多職種研修について、住民向け普及啓発について、認知症初期集中支援チームの設置等	○在宅医療推進委員会の開催(2回)	○在宅医療推進委員会の開催(4回)(H28.3の1回開催含む) 【構成員】豊田加茂医師会、豊田加茂歯科医師会、豊田加茂薬剤師会、豊田市社会福祉協議会等 【内容】在宅医療・介護連携推進事業の8項目の進め方	○在宅医療連携協議会の開催(4回)	○在宅医療連携協議会の開催(4回)(H28.2に1回開催含む) 【内容】ICTの運用の検討及び清須市との統一の方法、ICTの運用の拡大、医療・介護資源マップの導入等
	○多職種研修会の開催(3回)	○各職種研修会等の開催(7回)(H28.1以降3回開催含む) 【内訳】認知症ケアネットワーク3回(1回は予定)、ごちゃまぜ交流会2回(1回は予定)、地域包括ケア研修1回、地域包括ケア多職種研修1回(予定)	○医療機関とケアマネ間等の連携強化検討部会の開催(2回)	○医療機関とケアマネ間等の連携強化検討部会の開催(3回)(H28.3の1回開催含む) 【内容】在宅医療・介護連携推進事業の8項目の内、4項目を検討	○多職種連携研修会の開催(2回)	○多職種連携研修会の開催(4回)(H28.2に1回開催含む) 【内容】口腔のトラブルへの対応、高齢者の現状、在宅医療の役割と課題について等
	○講演会の開催(1回)	○講演会の開催(3回)(H28.2に2回開催含む) 【参加人数】1回目:202名 【内容】認知症について	○疾病マネジメント部会の開催(3回)	○疾病マネジメント部会の開催(3回)(H28.3の1回開催含む) 【内容】在宅医療・介護連携推進事業の8項目の内、3項目を検討	○講演会の開催(1回)	○講演会の開催(1回) 【参加人数】215名 【内容】在宅医療サポートセンターの紹介、病院をでて、おうちで過ごそう～住み慣れた地域で過ごすための在宅医療入門～
	○ICTの導入検討	○ICTの検討 岡崎市幸田町保健・医療・福祉ネットワーク「岡崎幸田いえやすネットワーク」立ち上げ	○多職種研修会の開催(1回)	○各種研修会等の開催 【内訳】ケアマネ勉強会2回、在宅医療推進のための多職種合同研修会2回、家庭で出来る看護教室(3回)、訪問看護同行研修(H27.7.1～8.30で開催)	○ICTの試行実施	○H27.4からシステム「北名古屋レインボーネット」を運用開始 ※登録事業所数:36(登録者数:65名)、患者登録数:11名
			○シンポジウムの開催(1回)	○在宅医療シンポジウムの開催(1回) 【参加人数】97名 【内容】在宅医療の発展ために～現状と今後問題点をテーマに講演等を実施		
			○ICTの導入検討	○ICTの検討 【今後の予定】平成28年度にモデル事業の実施を予定。これを踏まえて本導入を検討		
その他(27年度のみ)		○予防の取組 ・地域サロン等の把握(福祉委員会へのアンケート実施)【新規】 ・地域介護予防活動支援 【内容】サロン活動への補助金の交付、介護予防リーダー(健康づくりリーダー)による体操の実施等		○予防の取組 ＜はつらつクラブ事業(二次予防事業)＞ ・基本チェックリストに該当した高齢者に対し、運動・栄養・口腔器機能向上・認知症予防・うつ予防を含む複合型教室を実施 ＜元気アップ事業(一次予防事業)＞ ・自治区の集会場等で、介護予防を目的としたストレッチ、筋力アップ体操、脳力アップ等を教室形式で実施		○予防の取組 ・シニアヘルスアップ教室の開催(内容は筋力トレーニング、栄養に関する講座等)
		○生活支援の取組 ・相談窓口となる地域包括支援センターの増設に向けて、7箇所の受託候補者を決定【新規】 ・各地域包括支援センターで実施している地域ケア会議の中で地域づくりについて検討【新規】		○生活支援の取組 協議体の設置【新規】 ・H27年度市内5ブロックそれぞれにモデル地区(中学校区単位)を設定し、順次、協議体を設置(8月～) ・モデル地区以外において自治区への周知やブロック会議での説明の結果、自治区より依頼を受けて、協議体の開催を調整・実施(3箇所) ・市内27中学校区の内、8中学校区で実施済み		○生活支援の取組 ・シルバー人材センターにおけるワンコインサービス(草刈、家族の食事等介護保険適用外の生活支援サービス)の実施【新規】
自己評価		地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種と地域支援者の理解が進んでいる。市が主体ではない多機関による取組が広がっている。		昨年度よりも活動を充実させることができた。引き続き、多様な主体と連携して議論を重ねていくことが必要であると考えている。		職種間の連携の自主団体が立ち上がる等職種の繋がりが進んでいると実感している。